

1-3-16-1 こくぶん し おもてもん 国分寺表門 むなふだ 附棟札

〈市指定〉昭和 52 年 5 月 8 日

〈所有者〉国分寺

〈所在地〉総和町 1 丁目 83 番地

〈時代〉元文 4 年 (1739)

〈員数〉1 棟 2 枚

四脚門 (1 棟) 桁行 3.090m、梁間 1.303m、二重柿軒付、銅板葺棟札 (2 枚) ①棟木の下端西側に元文 4 年 (1739) 8 月の創建棟札、大工松田太右衛門、葺屋富田喜兵衛、内山伝四郎
②棟木の下端東側に享和 3 年 (1803) の葺替棟札、葺師前原平蔵

元文 4 年 8 月、飛騨代官長谷川忠崇の手代小林儀右衛門ら 4 名の寄進により、飛騨の名工松田太右衛門が建てた。

冠木上に架せられた板かぶき葺かえるまたや、腕木の繰り形にこの地方中期の好例を残しており、形態も美しい。当初基壇がなく、地表面上に建てられていたが、保存のため基壇が設けられた。昭和 53 年にはのし板葺であった屋根も現在の銅板葺に改められた。